

2005年7月4日

下北沢駅周辺地区 地区計画素案の取り扱いに付いての要望書

熊本哲之 世田谷区長殿

要望；

本年3月に世田谷区より発表されました「下北沢駅周辺地区地区計画素案」について、下北沢に重大な関心を持つ街づくりの専門家が集まり、内容を精査検討しました。その結果、この案は現代の街づくりの考え方に照らして基本的な問題を孕んでいるだけでなく、住民を交えた議論が尽くされているとは言えないと判断します。世田谷区の街づくりに責任のある世田谷区長に対し、素案を再考することを強く要望し、この案が都市計画決定の原案とならないようご配慮頂きたくお願いします。

理由；

私たちは、下北沢の街づくりについて深い関心を抱く街づくりの専門家です。昨今、マスコミ等で報道が重ねられている下北沢地区の地区計画および道路計画について、専門家として重大な関心を持ってまいりました。そこで、懸案の地区計画素案の内容と、住民との合意形成の経緯について精査検討を行った結果、以下の結論に至りました。

世田谷区長の良識に照らして、この結論に配慮し、行政手続を進行させる以前に更なる検討が必要であることを十分にご認識頂きたいと思えます。

1. 下北沢地区には、長い時間をかけて築いてきたアイデンティティーとブランド、ユニークな文化性があります。それらを支える都市の構造は、現代都市計画上高く評価されるべきものだと考えられます。しかしながら、この点についての十分な考慮が欠落し、計画に反映されておりません。

(1) 素案が意図する「下北沢地区の魅力である、歩いて生活できる中層建物主体の活気ある街並みづくり」が、地区計画素案には正確に反映されていません。高さに関する緩和条項を持ち、土地の集約による高層建物群が建つことを意図しているように見えます。

(2) 地区計画に盛り込まれた道路からの壁面後退は、確実に現在の下北沢の街並みが持つ「下北沢らしさ」を破壊し、消失させることが予想されます。不必要な壁面後退は、下北沢の優れた空間スケールを破壊するだけです。壁面後退の根拠に防災性の向上が挙げられていますが、それによらない防災性の向上についての検討がされていません。

(3) この地区計画の基礎にある幅26mの補助54号線道路および車を主役とする駅前広場の実現は、せっかく築き上げてきた下北沢の景観・スケールを壊すものです。地区計画素案の前提条件についても再考することが望まれます。

2. 地区計画骨子案・素案に関する住民への説明は、告知の仕方も不十分で、パワーポイントによる概要説明も住民にはわかりにくいものでした。時間、回数も到底十分であるとは言えません。街の将来ビジョンに関する関係住民の十分な合意形成なしに地区計画案が策定されつつあると考えます。

(注：地区計画骨子案説明会は2005年1月に4回、素案説明会は3月24日に1回行われました。しかし、限定された住民にのみ告知され、短時間の説明は模型などもなく、一般住民には理解しがたいものでした。)

3. 今回の地区計画案は、世田谷区と地元の「まちづくり懇談会」との意見交換により策定されたと説明されました。しかし、地区特有の経緯から、参加者が限られ、公開もされなかった「まちづくり懇談会」は、住民を代表する団体であるとは考えられません。早急に区のまちづくり条例にのっとり、公開された「まちづくり協議会」を組織し、上記1.の議論に耐えうる地区計画案を再検討する必要があります。

以上

下北沢の街づくりに重大な関心を寄せる専門家の集い

代表 蓑原 敬（都市プランナー）

青木 仁（東京電力技術開発研究所）

大方潤一郎（東京大学教授）

加藤仁美（東海大学教授）

北沢 猛（東京大学助教授）

倉田直道（工学院大学教授）

国広ジョージ（国土舘大学教授）

小浪博英（東京女学舘大学教授）

小林正美（明治大学教授）

小林博人（慶応義塾大学助教授）

佐藤 滋（早稲田大学教授）

司波 寛（都市計画コンサルタント）

陣内秀信（法政大学教授）

高見沢邦郎（首都大学東京教授）

中井検裕（東京工業大学教授）

西村幸夫（東京大学教授）

二瓶正史（建築家・法政大学講師）

福川裕一（千葉大学教授）

山本俊哉（明治大学助教授）

吉川富夫（広島県立大学教授）

（アイウエオ順）

連絡先；蓑原 敬

郵便番号 156 - 0055

東京都世田谷区船橋4 - 1 - 14

Tel; 03 - 3789 2488

Fax; 03 - 3789 2481

E-mail; k-mpco@yd5.so-net.ne.jp